

色も香も



いろ ^かも…、きれいな言葉だと思いませんか？

姿美しく心もゆかしく。そんな意味があるそうです。

この言葉のとおり、日野町は色も香もすばらしいまちです。

豊かな自然とそこに暮らす素朴であたたかい人々…。

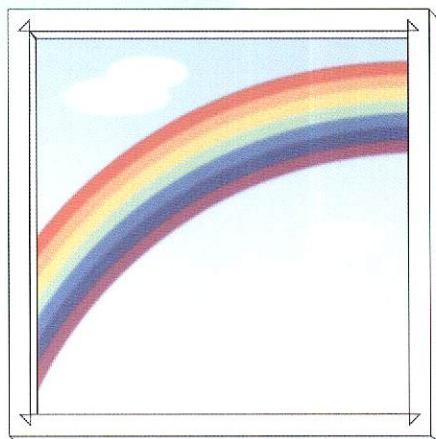
そんな日野町の魅力を、色にちなんで紹介していきます。

ふと空を見上げると、虹が出ている。「あ、虹だ」。

不思議なことにそんな日は、それだけでハッピーになれる。

日野町も、そんなふうに人を幸せな気持ちにさせる存在でありたいものです。

そんな思いを込めて、まちの情報あれこれを、虹の七色に重ねてみました。



目次

「あか」	1
紅色に染まる滝山公園・暮らしの中の「あか」	
「オレンジ」	3
日野町の人気者 鵜の池・日野川のオシドリ	
「黄」	4
まちの各地に残る時代の足跡	
「みどり」	6
みどりに囲まれた高原の湖「鵜の池」	
「青」	8
日野川周辺せせらぎめぐり	
「藍」	10
熱気がみなぎるイベントあれこれ	
日野町マップ	12
白いキャンバスに未来を描く	14
健康福祉・生涯学習	
生活環境・産業	
「紫」 発刊によせて	
日野町町民歌	

日野町の春を告げるのは、滝山公園を埋めるツツジ。その鮮やかな紅色の花が、山全体を覆うように咲き乱れ、春の風に、その可憐な花びらをふるわせる。



滝山公園

紅色に染まる滝山公園 たまさん

日野町は、鳥取県の南西部に位置する自然豊かなまちです。中国山地の秀峰が連なり、まちの中央には清流と名高い日野川が流れています。中でも奥日野県立公園に指定されている滝山公園は、まちを代表する風景です。

この滝山公園の名を広く知らしめているのは、山をまさに覆うように咲くツツジの存在です。約三万本にもおよぶダイセンミツバツツジが、四月の中頃から五月のはじめにかけて一斉に開花すると、山は鮮やかな紅色に染め上げられ、訪れる人のため息を誘う壮麗な風景をつくりだします。

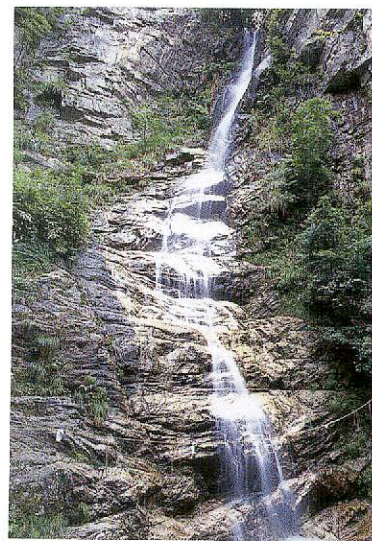
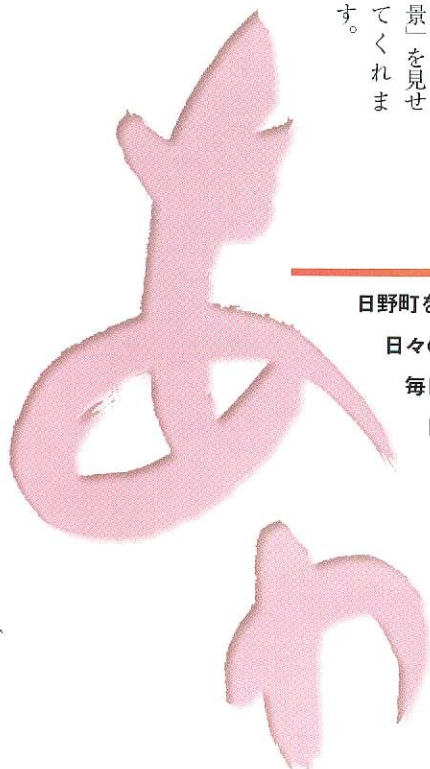
この「ダイセンミツバツツジ」、名前の通り枝先に三枚の葉が出るのが特徴で、葉を出す前に花をたくさん咲かせます。ツツジには実に多くの種類がありますが、山ツツジとも呼ばれるミツバツツジは、その中でも特に愛好家が多いようです。春を迎えて葉に先駆けて花をつける健気さに、心ひかれる人も多いのではないのでしょうか。

公園内にある滝山神社の境内には、小泉八雲の小説「骨董」に出てくる幽霊滝のモデル「龍王滝」があります。落差七十メートルの迫力あるこの滝は、紅葉に包ま

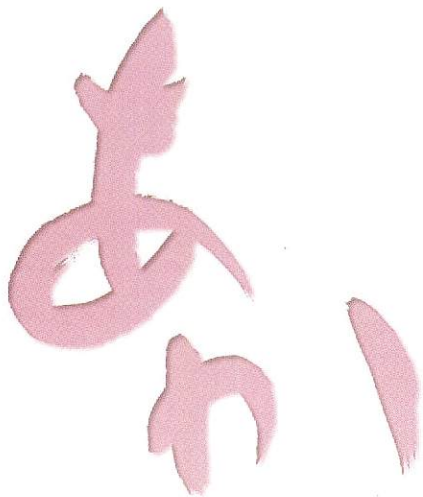


れる秋、また違った「あかの風景」を見せられます。

日野町をぐりと見渡してみれば、
日々の風景の中に「あか」の存在が光っています。
毎日の暮らしに彩りを添える
日野町の「あかの風景」を探してみました。



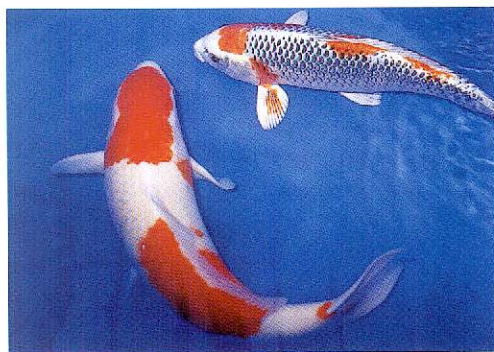
龍王滝



日野町は、美しい自然と心うるおう街並みが自慢のまちです。町内には数多くの観光スポットがありますが、美しいのは何も「名所」と銘打った場所だけではなく、私たちが毎日を過ごしている暮らしの中にこそ、心打たれる風景を見つけることができます。

そんな中でも特に印象に残るのは「あか」のある風景です。例えば道はたのお地藏様、のどかな眺めの中に深紅の前かけが鮮やかに目に映ります。

暮らしの中の「あか」



町内ではたくさんの鯉が飼われています。

日野町の人気者鵜の池・日野川のオシドリ

日野町はオシドリのまちとしても有名です。まちを流れる日野川や標高四百メートルの高原にある鵜の池には、毎年多くのオシドリたちがやって来ます。そんな彼らの姿を見るために、野鳥愛好家たちもまちを訪れています。

鳥取県の鳥でもあるオシドリはカモ科の鳥で、オスはおよそ四十八センチ、メスは四十一センチほどの大きさです。日本各地で見られる鳥ですが、四百から五百羽の大群を観察できるのは、全国でも多くありません。オシドリのオスは、夏の間は「エクリプス（夏毛）」と呼ばれる地味な姿をしています。秋になるとイラストのような色とりどりの羽毛で美しく身を飾ります。中でも首のまわりのオレンジ色が一際美しく、遠くからでもそれとわかります。メスはより美しい羽をしたオスにひきつけられ、そしてツガイになります。



(オシドリグループ山根茂さん提供)

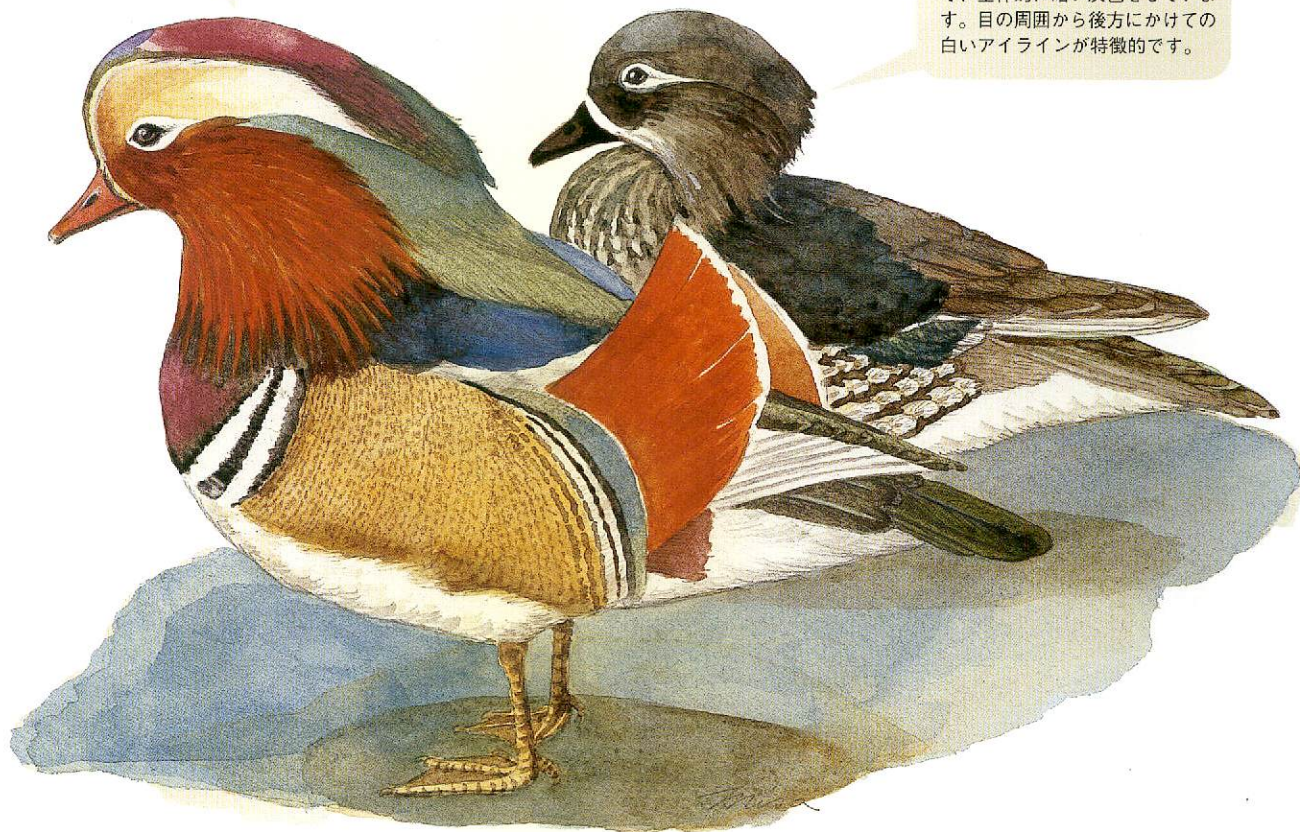
オシドリのオスは、
繁殖期を迎えると美しい羽で身を飾ります。
中でも首からほおにかけての
鮮やかなオレンジ色は
見る人をはっとさせるほど印象的です。
そんなオシドリたちのいる
日野町の風景を紹介します。

オス

オスはメスにくらべると赤・オレンジ・紫など体色が派手で、大きな「いちょう羽」があるのが特徴です。くちばしは鮮やかな赤です。

メス

メスはオスよりもひとまわり小柄で、全体的に暗い灰色をしています。目の周囲から後方にかけての白いアイラインが特徴的です。



オシドリ夫婦

他のカモとなじまずオシドリだけの群れをつくることが多く、またツガイが一緒のことが多いため、オシドリ夫婦の名の由来となっています。

好物

主に植物性のものを餌とします。なかでもドングリやシイの実が大好物です。水棲昆虫を食べることもあります。

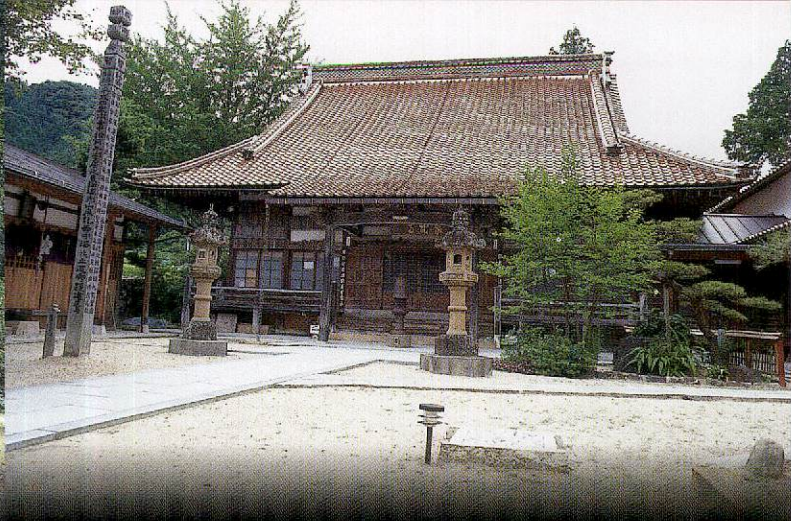
子育て

オシドリは木の洞に巣をつくり、一度に7～12個の卵を産み、ふ化したヒナは親鳥について木の上から水上に飛び降ります。下が水面だと一番よいのですが、地面でも落葉がたくさんつもっていれば大丈夫です。ヒナの世話をするのはメスで、オスはこの頃からオスだけで集まって遊んでいます。

鮮やかなオレンジ色の羽を誇らしげにアピールするオシドリの雄。
立派な羽にひかれ、求愛に応える雌。
自然界の色には、ただ美しいだけではなく意味と価値がある。



金持神社



泉龍寺

まちの各地に残る時代の足跡

日野町の歴史は遠く弥生時代までさかのぼります。町内の岩田地区では竪穴式住居が発見され、古代人の暮らしが確認されました。また各地に古墳が分布しており、四〜六世紀には多くの人がこの地に住みついていたことがわかっています。

平安時代末期には、この地に流された長谷部信連によって京文化がもたらされ、延暦寺や祇園橋、長楽寺などの創建、再建が進められました。その長楽寺には平安時代作の薬師如来と日光、月



光菩薩、毘沙門天、不動明王の五体像が安置されていますが、そのいずれもが国の重要文化財に指定されています。長楽寺から国道に向かう道中には、延命水と名付けられた湧き水がこんこんと湧いています。

また町内には、全国でもひとつしかない縁起のよい名前の神社「金持神社」が鎮座しています。後醍醐天皇が隠岐島から脱出する際に従った忠臣金持景隆が必勝祈願したと伝えられています。江戸時代には出雲街道の宿場町として栄え、日野川の渡し船（舟場）も設けられていました。また、中国山地でとれた黄檗の内皮を使った健胃薬も有名で、江戸でも人気の薬だったようです。また、幕末、勤王派の因幡二十士が幽閉された泉龍寺もあります。その他にも歴史民俗資料館では、民具などを見ながら昔の生活様式を学ぶことができます。

黄

(巻)

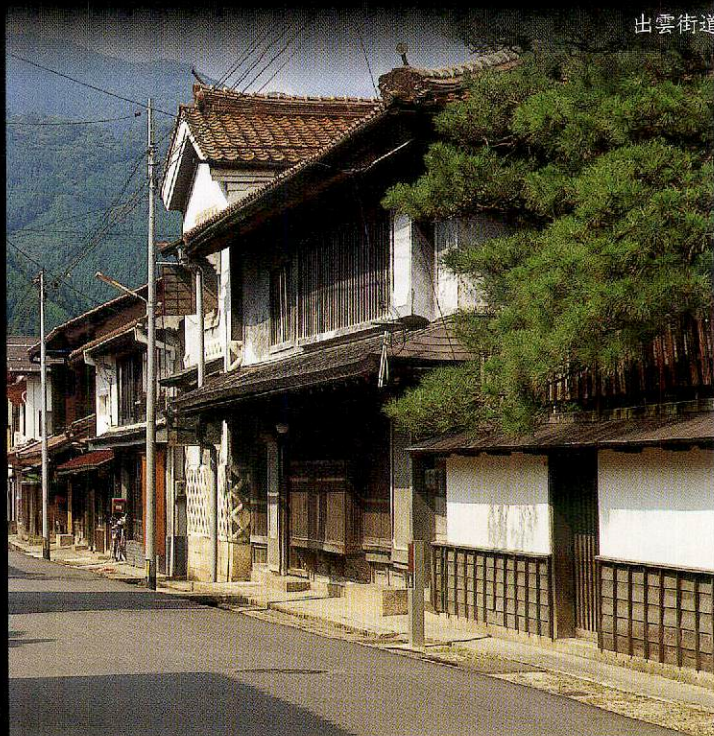
古代の書物に黄巻きょうかんがあります。その紙は虫食いやシミを防ぐために、黄檗きんぱくの樹皮で染められていました。さて日野町の黄巻、まちの歴史絵巻をひもといってみましょう。



歴史民俗資料館



祇園橋



出雲街道

親から子へ、子から孫へ。絶えることなく守り伝えられてきた文化財の数々。
歴史の重みを教えてくれるこれらの軌跡をめぐれば、
まちが長い年月の間、静かに見つめてきた黄色い思い出が見えてくる。

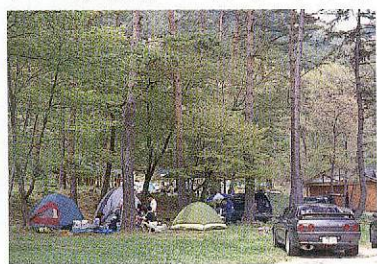


日野町をより鮮やかに、
そして、より美しく彩るのは「みどり」。
みどりの存在は、見た目の美しさだけでなく、
このまちに暮らす人々に、安らぎと潤いを与えてくれる。

みどりに囲まれた高原の 湖「鵜の池」

日野町には、数え切れないほどの「みどりの名所」があります。道を歩くだけでも、そこかしこに四季折々の豊かな表情を見つけることができます。

山頂の湖として知られている鵜の池は、標高四百メートルの高原にある周囲二・三キロの静かな湖です。美しい湖畔を眺めながらのハイキングやキャンプ、釣りなど楽しみ方もいろいろで、新緑や紅葉のシーズンに賑わいます。秋から春先にかけては、鳥取県の鳥であるオシドリが多く飛来し、野鳥の宝庫としても知られています。



新見市からの玄関口となる明地峠^{あけち}には、展望台が設けられています。標高六百五十メートルから望む大山の雄大な姿や、眼下に広がる絶景は、横溝正史原作・松竹映画社作成「八つ墓村」のロケ地としても有名になりました。

また町内に広がる美しい田園風景も、

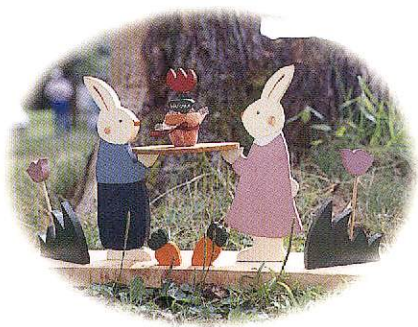


日野町を代表する眺めです。太陽の日差しを受けてきらきらと輝く棚田や、田の脇に咲く菜の花やひまわり。生命力に満ちた若葉のきらめき。そんな何気ない日常の中に、ふるさとも感じさせる「みどりの風景」が輝いています。



鵜の池

見る人の心を和ませ、潤いを与えてくれるみどり。
その鮮やかで新鮮な色合いには、
豊かな生命力と生きる喜び、そして生への躍動感があふれている。



カワコふれあい公園

ゆるやかに流れる日野川の涼しげなブルー
空の「青」と川の「青」、それぞれに味があり、魅力がある。
見る人の心まで爽快にさせる、青にはそんな力がある。





日野町の「青の風景」と言えば、
日野川をおいては語れない。
まちの中央を悠々と流れる
ふるさとの川が見せる
涼を誘う風景を
一緒に歩いてみよう。

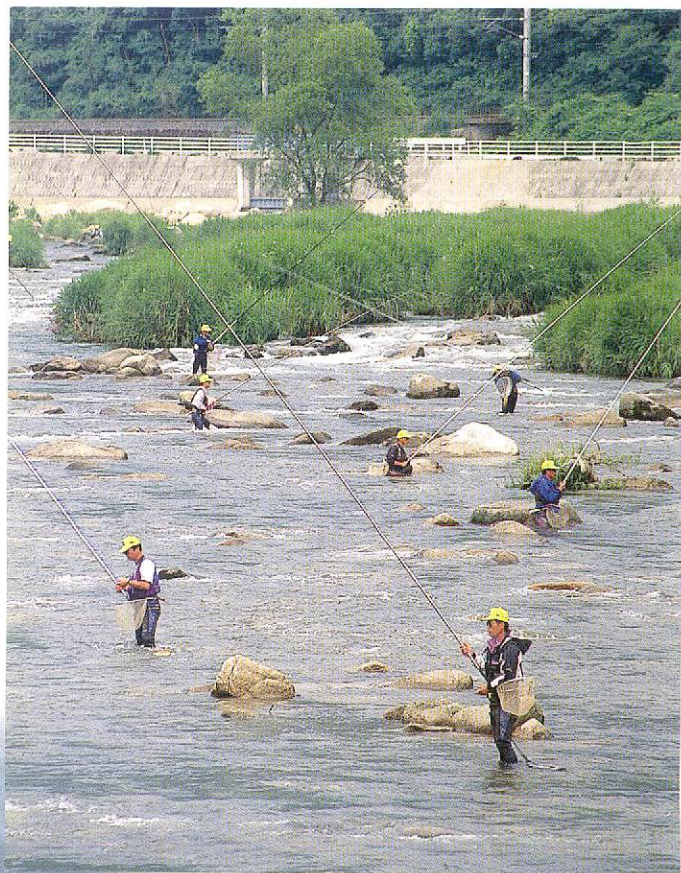


日野川周辺せせらぎめぐり

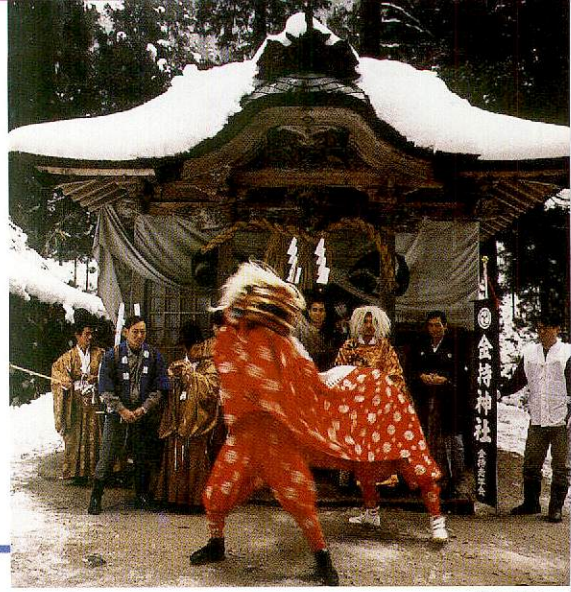
まちの真ん中を流れる日野川は、鳥取県の三大河川のひとつに数えられている美しい川です。六月になるとアユ釣りの解禁日待ちかねた太公望たちが川にやってきます。アユだけでなく、コイやウグイなどもあります。

また日野川は、カヌースラロームのメッカでもあります。西日本屈指のコースとして知られ、毎年カヌー選手権大会が開催されています。日野町では初心者の人にも気軽にカヌーに挑戦してもらおうと、毎年カヌーの里で体験教室を開催しています。

平成九年にオープンした「リバーサイドひの」には、宿泊施設の他に郷土料理を味わえる食堂もあり、広域圏での交流の拠点となっています。



藍



獅子舞

夏の夜空は深い藍の色をしている。
真昼の暑さがやわらいで、一陣の風に心がほっと和む。
そんな藍の空をあでやかに彩るのは「花火」。
豪快な音とともに大輪の花が夜空に咲く。



ナイターリーグ

熱気がみなぎるイベント あれこれ

古来より代々伝えられてきた伝統行事をはじめ、近年はじまったユニークなもので、日野町には、熱気がみなぎるイベントがたくさん開催されています。

まずは年はじめ、新年を祝う獅子舞が金持神社で奉納されます。縁起のよい名前に魅せられて、多くの参拝客が初詣に訪れます。

四月上旬にはカヌーの里でカヌー選手権大会が開催されます。県の内外から集まった選手による迫力あるバトルさばきに、多くの人が魅了されます。四月の終わりから五月上旬にかけては、滝山公園でつじまつりが開催されます。昼夜を問わず多くの花見客が訪れます。

濃紺の夜空のもと、藍染めの浴衣で繰り出す夏祭り。娛樂が少なかった昔は、盆踊りが何よりも楽しかった。今やまつりのスタイルは様々。日野町を盛り上げる幾多のイベントに注目。



紅葉マツタケ祭り

そして夏と言えば根雨まつりです。毎年七月の第三土曜日に開催される夏まつりで、様々なイベントや花火大会で大いに盛り上がります。七月下旬には、鶴の池マラソン大会が開催されます。湖畔をまわるコースが人気のこのレースには、ここからお年寄りまで全国から参加者が集います。八月十六日には黒坂納涼祭りが催されます。打ち上げ花火の他、屋台や盆踊りなど、昔ながらの夏まつりを満喫できます。また八月のイベントで忘れてはならないのが、日野川マッスルレースです。カナディアンカヌーのレースやいかだ渡りなど、家族そろって楽しめる人気のイベントです。秋には滝山公園で紅葉マツタケ祭りが開催されます。見事に染まった紅葉の中で、マツタケを賞品にした楽しいゲームなどが目白押しです。また、町民手作りの生きいきびのふれあい祭りが開かれます。さあ、あなたも日野町のまつりに参加して大いに楽しみましょう。

日野町ゆかりの特産品がズラリ。金持神社にちなんだお菓子やソバ、地酒や餅も人気です。その他にも木彫りのアクセサリや味噌に醤油などがあります。





根雨まつり

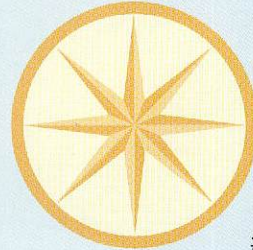


黒坂納涼祭り



日野町マップ

N



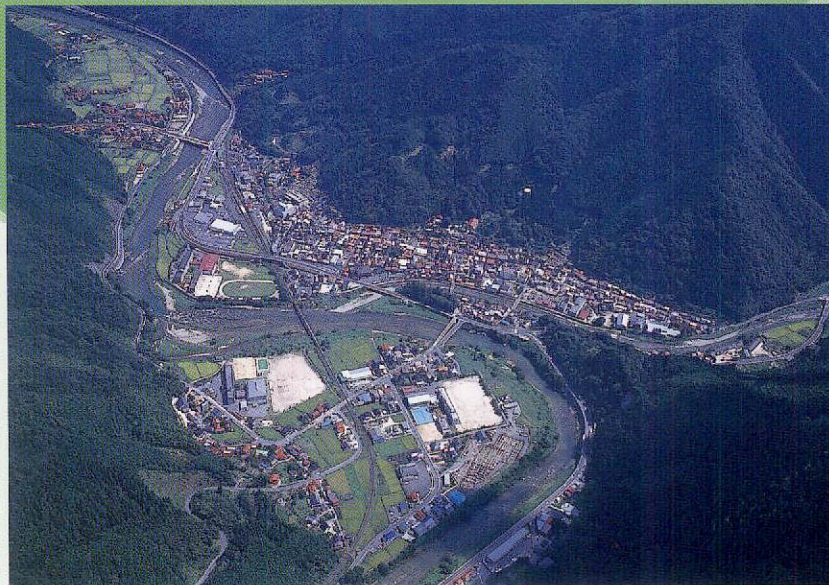
縮尺 1 : 65,000



文化センター



金持神社



根雨周辺空撮



明地峠雲海

至溝口町
米子市方面
間地峠
(標高485m)

古峠山
(標高767m)

至米子市方面
江府インター

舟場 貝原

オシドリ
観察地
野田
(標高187m)

三谷
延暦寺(生田長江の碑)
役場・文化センター

根雨
根雨神社
本陣の門
歴史民俗資料館

塔の峰公園
日野川カヌーの里
交流センター
リバーサイドひの

宝仏山
(標高1,002m)

高尾

金持

金持神社

金持景藤の墓

板井原

四十曲峠
(標高738m)

至大佐町方面

至津山市
大阪方面

本郷

榎市

濁谷

八つ墓村ロケ地跡

門谷

秋縄

三土

明地峠
(標高666m)



黒坂周辺空撮



オシドリ



鴉の池

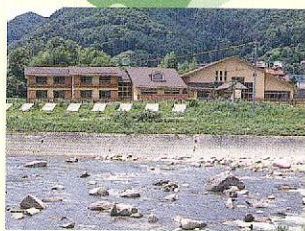


日野川カヌーの里



凡 例

- 国道
- その他道路
- 河 川



交流センターリバーサイドひの



滝山公園

白いキャンバスに未来を描く

私たちの明日、日野町の明日。
それは、大きくて真っ白なキャンバス。
色とりどりの絵の具を使って、未来を描こう。



郷土を生かして住みよいまちに

日野町の「魅力」って何でしょう。それはこのまちに暮らしている皆さんが、一番よく知っていることかもしれません。例えば「ゆつたりと暮らせること」と言う人もいるかもしれませんが、「ツツジが咲いた滝山公園」「鶴の池とオシドリ」と言う人も多いことでしょう。「アユ釣りのできる日野川」「古い街並みが残る出雲街道」「明地峠の雲海」そして「何と言っても人情だよ」なんて言う人もいるに違いありません。

まちでは、これからのまちづくりを進めていくにあたって、まずは「郷土のよさ」を再発見してみようと考えました。そしてこの様々なまちの個性を、



まちをつくっていく(育てていく)素材のひとつとして注目し、今後に生かしていきたいと考えています。

そこで、物質的な豊かさだけでなく、真に人間らしく生きることができ、個性的で愛着のもてる「ふるさと」をつくっていくために、第三次日野町総合計画を策定し、まちづくりを進めています。

第三次日野町総合計画

日野町のまちづくりは、町民みんなの力をあ

わせて、町民一人ひとりが幸せで「質」(クオリティ)の高い生活を営み、豊かで住みよい活力のあるまちをつくることを目標にしています。そのためのビジョンとして「愛と元氣なまちづくり」を掲げ、次の三つの目標を設けています。

1 魅力と活力みなぎる交流事業の推進

日野町にはJR伯備線や陰陽を結ぶ国道が三本通過しています。また米子自動車道の江府インターから車で約十分の距離にあることから、全国都市との時間的距離が短縮されつつあります。そんな地理的交通条件を生かしながら都市との交流を図り、地域の生活や産業の活性化をめざしています。

2 未来を創造する心豊かな人づくり

まちづくりは人づくりという言葉に耳にしたことはないでしょうか。まちでも、急速に進展していく社会や多様化する価値観に柔軟に対応できる人づくりと地域づくりの社会システムの充実をめざします。

3 健康で明るいまちづくり

まちづくりのビジョンに掲げている「愛と元氣なまちづくり」を実現するためにも、こどもからお年寄りまで、すべての町民が安心して住むことができ、健康で安定した生きがいのある暮らしを創生していくことが大きな課題です。そこで、生きる喜びを実感できる福祉社会の実現をめざします。



健康福祉

やさしい笑顔のまちづくり

こどもから高齢者まで、まちに暮らすすべての人が、健康で笑顔いっぱい毎日を送れるように、健康教室、健康診断などを行っています。

また、世代を越えた交流の場となる健康フェスティバルやウォーキング大会などのイベントも一年を通して行っています。

一方で、日野病院を整備する他、在宅介護支援センターを中心に、在宅サービスと施設サービス、また医療との連携をとりながら、高齢者が住み慣れたまちで元気に暮らせるよう支援しています。そのために通所サービス、訪問介護、ショートステイサービスの充実を図っています。

その他にも地域やボランティアグループと連携をとりながら、やさしい笑顔のまちづくりを進めています。



生涯学習

豊かな心を育てる

生きがいのある心豊かな暮らしをめざして、生涯にわたり学ぶことにより自己を高めようという人が増えています。

まちでは文化センターや公民館などを中心に、おしどり学園や人権学習講座、ソバ打ち講座など幅広い学習、体験の場を提供するとともに、国際交流や地域交流、自主的な文化・スポーツサークルの活動を支援しています。

生涯学習の重要な一分野である学校教育では、こどもたちの個性を尊重しながら、国際化、情報化、高齢化が進む社会に対応できる人材の育成にも努めています。中でも赤米の田植え体験など、地域との結びつきを大切にした体験重視型の学習を行っています。



生活環境

暮らしやすさを考える

毎日の暮らしを支えているのが生活環境の整備です。

安全で快適な生活を送れるように、道路改良や上・下水道の整備をはじめ、若者の定住化を促進するため町営住宅の整備を行っています。

ゴミ処理では、厚生省の基準をクリアしたクリーンセンターくぬぎの森を中心に、町民の協力のもとゴミの分別収集とリサイクルに力を入れています。

また、地域と住民、行政などが連携して消防訓練や交通安全運動などを行い、安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいます。

さらに憩いの場であり、いざというときは避難地帯となる緑地や公園の整備なども行っています。

産業

まちを動かす活力

豊かな自然環境を生かして、水稲をはじめ繁殖牛の育成と堆肥を利用した減農薬野菜の栽培が行われ、白ネギやピーマンなどの特産野菜の振興に取り組んでいます。中でも伝統ある「日野和牛」飼育では、子牛の平均価格が県下でトップになるなど高い評価を得ています。

また広大な山林は、その恵みを次の世代につなぐため、森林の有効利用を図るほか、シイタケ栽培なども行われています。

商工業においては、商工会と連携を図りながら、中心市街地の活性化基本計画を策定し、地域資源を生かした基盤整備・商工業振興を進めています。



日野町町民歌 (1999年 町制施行40周年記念制定)

1. さわさわと

そよ吹く風^{ふう}に ツツジ^{つづじ}揺れ
ときめき きらり この町^{まち}の
移^{うつ}ろう季節^{きせつ} 鮮^{あざ}やかに
自然^{しぜん}が 四季^{しき}が 明日^{あす}がある
このふるさとに 生^うまれたことを
愛^{あい}する子供^{こども}に 伝^{つた}えたい
心^{こころ}のふるさと ここは日野

2. さんさんと

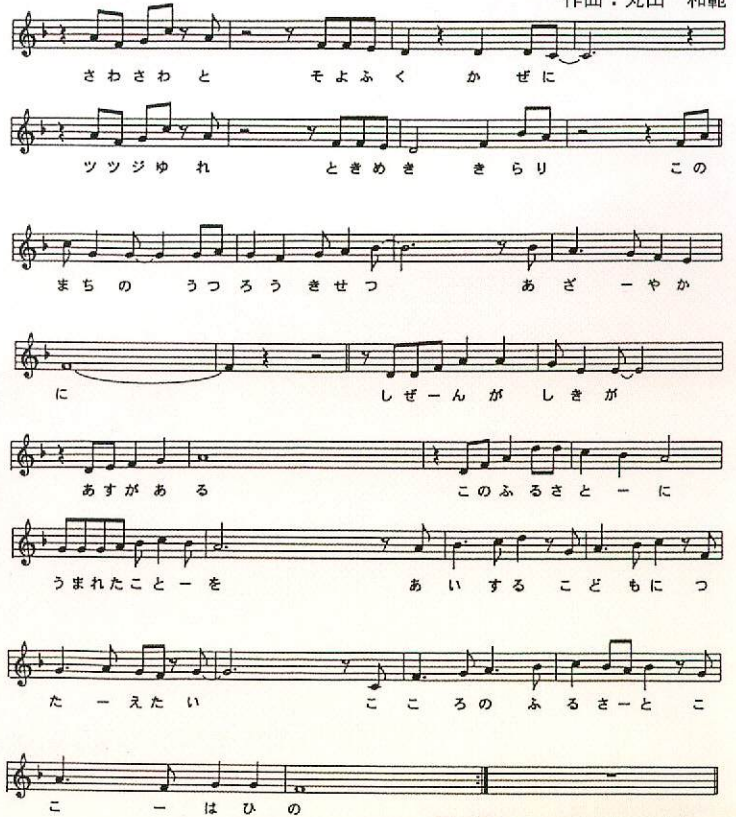
注^{そそ}ぐ陽射^{ひざ}しに 鮎^{あゆ}が跳^はね
輝^{かがや}き きらり この町^{まち}の
育^{はぐく}む歴史^{れきし} 悠^{ゆう}々と
ロマン^{ろまん}が 大地^{だいち}が 明日^{あす}がある
このふるさとに 住^すんでることを
愛^{あい}するあなたに 伝^{つた}えたい
心^{こころ}のふるさと ここは日野

3. ほのぼのと

みんなの笑顔^{えがお} 鴛鴦^{うりやう}が舞^まう
人^{ひと}の輪^わ きらり この町^{まち}の
心^{こころ}の絆^{きずな} 生^いき生^いきと
未来^{みらい}が 夢^{ゆめ}が 明日^{あす}がある
このふるさとに 生^いきてることを
愛^{あい}するみんなに 伝^{つた}えたい
心^{こころ}のふるさと ここは日野

「きらり この町」

作詞：平尾 正人
作曲：丸山 和範



発刊によせて

中国山地のみどりに囲まれ、南北に貫流する日野川流域に水と歴史とロマンに育まれた宿場町、県鳥オシドリが沢山飛来するまち日野町。昭和三十四年に根雨・黒坂の二町が合併、日野町として発足以来四十周年を迎えまことに喜びにたえません。多くの先輩各位による筆舌には言い表せないで努力によって、日野町政各般にわたり着実なあゆみを遂げており、深く敬意を表する次第です。

二十一世紀に向け一層の飛躍をめざし、恵まれた郷土の自然と調和・共生できるよう、個性ある日野町の未来を創造し、町民が心をひとつにして、住民総参加により人権尊重を基底にした健康で心ゆたかな人づくりと、安心して暮らせる町の実現に努めてまいりたいと存じます。このたび町勢の一端と四十年のあゆみを紹介し、併せて今回「町民歌」を制定し、未来を展望するまちづくりに資することを期待してやみません。今後とも深いご理解と格別のお力添えをお願い申し上げる次第であります。

平成十一年十月

日野町長

生田秀心



町章



町の花 ツツジ



町の木 スギ